

アジアを見る眼

96

山形辰史 編

やさしい開発経済学

アジア経済研究所

やさしい開発経済学

[アジアを見る眼]96

1998年1月20日発行©

編 者

山 形 辰 史

発 行 所

アジア経済研究所
東京都新宿区市谷本村町42
電話(代表) 3353-4231

印 刷 所

メディカ・ピーシー
東京都豊島区高松1-2-6
電 話 3 5 3 0 - 2 3 8 0

落丁、乱丁はお取替致します

ISBN 4-258-05096-2 C1233

やさしい開発経済学

山形辰史 編

「昨今、開発」という言葉によい印象をもつ人はあまり多くないようです。新聞では「開発」によって先祖伝来の土地を追われる人々、失われる様についてしばしば報道されています。今日、開発は発展途上国にとって必要のないこと、あるいは入るべきでないことなのでしょうか。

アジアを導く



96

ISBN4-258-05096-2 C1233

やさしい開発経済学

目次

第1章 開発は何のため

開発は何のため?.....山形辰史...2

発展とは何か——生活水準、社会厚生と価値判断.....山崎幸治...10

第2章 発展プロセスと構造

農 業——農村は「遅れている」か?.....猪俣哲史...24

工 業——「規模」をとるか「競争」をとるか.....森 壮也...31

労 働——働かない? 働けない?.....山形辰史...40

人的資本——からだが資本.....野上裕生...48

貯 蓄——備えあれば憂いなし.....黒崎 卓...57

第3章 開発戦略

貿 易——国際分業はなぜおこる?.....山形辰史...70

規模の経済——集まることのメリット.....浜口伸明...78

ビッグ・プッシュ——越すに越されぬ……………	山形辰史・浜口伸明……………	85
直接投資——経済発展における役割……………	岡本由美子……………	93
経済援助——金も出すが口も出す?……………	山形辰史……………	100

第4章 マクロ経済管理

インフレ——やめられない、とまらない……………	伊藤成朗……………	110
金融——わかりにくいが大切な役割……………	国宗浩三……………	117
財政——税金のとり方・使い方……………	北野浩一……………	127
開発計画——計量的手法の適用とその種類……………	黒岩郁雄……………	134
産業連関——生産連鎖の生態学……………	猪俣哲史……………	144
経済成長——高さがゆえに尊からず?……………	山形辰史……………	154

第5章 開発の恵み

環境——環境問題をひきおこすもの……………	寺尾忠能……………	164
-----------------------	-----------	-----

索引
214

あとがき——テーゼとアンチテーゼ……………山形辰史…201

環 境Ⅱ——環境保護と経済発展の両立を求めて……………小島道一…173

所得分配——豊かさと平等……………野上裕生…181

社会福祉——社会的弱者への目配りある開発を……………森 壮也…191

写真提供・株式会社裕林社

執筆者紹介（五十音順）

伊藤成朗（いとうせいろう）
猪俣哲史（いのまたさとし）
岡本由美子（おかもとゆみこ）
北野浩一（きたのこういち）
国宗浩三（くにむねこうぞう）
黒岩郁雄（くろいわいくお）
黒崎卓（くろさきたく）
小島道一（こじまみちかず）
寺尾忠能（てらおのただよし）
野上裕生（のがみひろき）
浜口伸明（はまぐちのぶあき）
森壮也（もりそうや）
山形辰史（やまがたたつあき）
山崎幸治（やまざきこうじ）

アジア経済研究所 在ブローヴェイデンス海外派遣員
アジア経済研究所 統計調査部統計企画解析課
神戸大学大学院国際協力研究科助教
アジア経済研究所 在サンチャゴ海外派遣員
アジア経済研究所 経済開発分析プロジェクト・チーム
海外経済協力基金
一橋大学経済研究所助教
アジア経済研究所 在バークレー海外派遣員
アジア経済研究所 総合研究部
アジア経済研究所 総合研究部
アジア経済研究所 総合研究部
アジア経済研究所 総合研究部
アジア経済研究所 総合研究部
アジア経済研究所 総合研究部
アジア経済研究所 総合研究部

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにあり、これらの新興国はそれぞれの立場に立って、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的」であるという。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以つてするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立つていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるであろうか。——この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最も大きな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサービスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七カ年余り、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月